

令和2年度和歌山県看護研究学会終了の挨拶

看護研究学会委員長

山口 昌子

(和歌山県立医科大学保健看護学部)

令和2年度和歌山県看護研究学会は、令和3年2月6日に、一般演題22題と会場参加79名、Web参加24施設148名の合計227名の方にご参集いただき、終了したことをご報告いたします。

本年度は、安心して、安全にご参加いただけるよう、看護研修センターとWEBでの学会開催となり、看護研究学会委員、協力員一同、手探りの状況での開催となりました。不慣れなこともあり、WEBでご参加くださった皆様には、アクセスの困難、見えにくい、聞き取りにくい等、多々の問題がありご迷惑をお掛けいたしました。また、会場にてご参加くださった皆様には、密をさけ、感染予防にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

本年は、「その人らしさを支える看護—ともに考える地域包括ケアの未来—」をテーマに特別講演、シンポジウムを企画いたしました。特別講演では、在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス代表 宇都宮宏子先生から、「地域包括ケア時代における看護の可能性、ケアプロセスを切れ目なくつなぎ、意思決定を支える」として、地域、生活の場でその人らしさを大切に、生活者に寄り添い、できること、続けたいこと、希望を本人から引き出し支援する過程についてご講演をいただきました。

シンポジウムでは、「地域包括ケアの実践から未来を考える」として、訪問看護ステーション 駒駒 訪問看護認定看護師 平岡桃重先生、たぶせ在宅クリニック 院長 田伏弘行先生、済生会有田病院 地域医療福祉部長 廣畑直子先生に、それぞれのお立場から、日ごろの実践での取り組みと地域包括ケアの今後のあり方についてのご講演をいただきました。先生方と参加者との活発な意見交換が行われ、充実した場となりました。

学会が無事に盛況のうちに終わりましたことをこの場をお借りしまして深く御礼申し上げます。参加された皆様、関係者の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。



今年度、初めてのWeb開催。会長の挨拶から始まる。



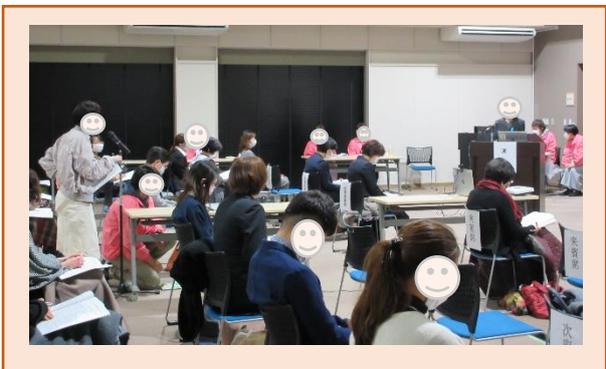
大ホールでの口演発表



Webによる参加施設の様子



大ホールがいっぱいになったため、
サテライト（研修室2）を使用



質問、意見交換も活発だった。



いつもと違うシンポジウムの座席
特別講演の宇都宮先生もコメンテーター
として参加してくれた。



最後は看護研究学会委員長の挨拶で終了